



ご当地YouTuber「おねえさんといっしょ」
青野 大夢さん **珠理さん**
(おにいさん) (おねえさん)

Profile

昨年2月から、夫婦で「おねえさんといっしょ」のチャンネル名で動画サイトYouTube(ユーチューブ)へ動画投稿を開始。前職は夫婦ともにダンスインストラクター。名張を拠点に観光名所や気になるお店巡りなどを配信している。企画・撮影・編集などすべて2人で行う、自称「世界一仲のいい夫婦」。



名張系YouTuber

2年ほど前に始めたYouTube。ゲーム動画を配信していました。昨年2月、入籍したのを機に、夫婦で市内の観光名所や気になるお店を巡ったりする動画配信をスタート。夫婦で「大好きな名張」をアピールしたいという思いで、2人の思い出のカフェでグルメを堪能したり、青蓮寺のいちご狩りを楽しんだり。すると、「名張っていいところ」「おしゃれなお店」って反響が！私たちの動画を通して、名張の良さに触れてもらえている気がして、やりがいを感じます。撮影中、2人の仲が良すぎて、お店の人が呆気にとられることもありますけどね(笑)。動画の視聴者100万人が目標。名張に視聴者を集めて、ダンスや観光名所ツアーを企画するのが夢です。

人前に出るのが得意と思われかもしませんが、実は2人とも人と接す

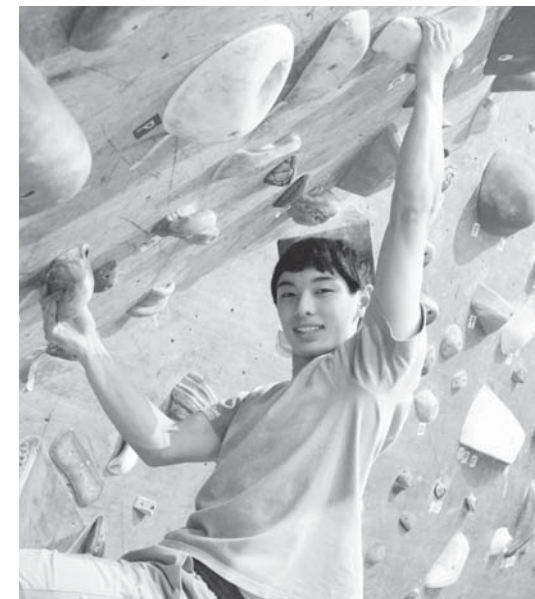
ることが得意ではありませんでした。それが今では、撮影許可や取材協力をお願いなど、積極的に動けるようになった気がします。動画制作を通して、少しずつ成長しているんだと感じますね。

昨年11月、青蓮寺湖畔で開催された「あさいろフェスタ」。以前、撮影協力いただいたご縁から、主催者のユノカフェさんにお誘いをいただき、ステージ出演させていただくことに。2人とも前職がダンスインストラクターだったので、その経験を生かして、お客さんと一緒に踊れるダンスを披露。直に反応を感じられて刺激的でした。「いつも見てます」って声をかけていただき、記念撮影も。変わることができた自分たちやこれまでの活動を認められて、なんだか胸がアツくなって、2人して泣いちゃいました。

世界のとっぺんへ

小学校3年生の時に見ていたテレビ番組で、割り箸の厚さほどしかない突起にぶら下がって移動する姿に目を奪われました。それがクライミングを始めたきっかけです。「公園にあるいろんな遊具をよじ登るのが好きやったね」と、母からよく聞かされるので、本能的に登ることが好きなんだと思います。壁に登って、単純に見えて奥が深い。「最短ルート」「体力の維持」「力の入れ方」など、瞬発力や判断力が求められる「身体を使ったチェス」とも言われます。登るのが難しいコースだと、大会中であっても他の競技者と「自分ならどうやって登るか」って話し合う。攻略法を考えるのが楽しいです。誰かが登ることに成功したら、自分のことのように嬉しいですね。いろんなことを考えて理解して、自分の知識やスキルにしていきたいのが自分の流儀。

学校の勉強も「丸暗記」よりも本質や仕組みを理解したいんです。週に4日は練習で壁を登ります。練習環境が整った施設が少なく施設ごとに壁の難易度やコースもさまざま。「いろんな環境で練習できるように」と両親が関東や四国などへも送迎してくれます。家族の支えに感謝しかありません。自信が湧いたのは、令和2年11月、日本選手権の年代別で2位になった事。優勝こそ叶いませんでしたが、これまでの練習の成果をしっかりと出せた納得のいく結果でした。これまで格上と思っていた選手と肩を並べて競えたことに、喜びがこみ上げた大会でした。今は「クライミング」のことしか頭にありません。世界を舞台に、自分がこれからどれだけ登っていけるか、そこからどんな景色が見えるか。想像するだけで楽しくてたまりませんね。



スポーツクライミング
杉本 侑翼さん

Profile

昨年10月 とちぎ国体(少年男子)ボルダリング2位、一昨年8月世界ユース選手権(ロシア)スピード3位など、勢いに乗る近畿大学工業高等専門学校1年生の16歳。小学校3年生からクライミングを始め、中でも制限時間内に完登した課題数で競う「ボルダリング」で腕を磨く。2028年開催予定のロサンゼルス五輪 日本代表を狙う。

新春特別企画 2023
名張市民の
Special Interview

夢

夢をもって自分を笑顔に。
夢を目指して人生を豊かに。
みんなの夢が名張の元気の源に。
さあ、令和5年の始まりです！



名張消防署 救急室
大山 優 (写真右)

Profile

平成30年採用、5年目の消防士。救急救命士の資格を持つ。消防や救急の現場での活動を経て、現在は名張消防署救急室で救急関係機関との調整や救急救命講習などに従事。先輩の消防士と結婚し、一児の母。現在第2子を妊娠中で、名張市消防本部が昨年12月に導入したマタニティ制服で執務にあたっている。4月に出産予定。

消防士、母になる。

私を成長させたのは、消防救助技術者を競う大会の選手選考でした。逆さ吊りでのロープ渡りが苦手で、男性隊員は渡り切れるのですが、私だけはダメだった。体力不足、それに高所の恐怖感があったんです。それが悔しくて、ひたすら続けた懸垂。1カ月半ほど経ったころでしょうか。「渡ってみるか」と声をかけてもらったんです。絶対渡り切る！そんな強い気持ちで20mの長さをすっと渡り切れました。その時は恐怖心なんて感じませんでした。

これまで数々の火事や救急の現場を経験してきました。チームの足を引っ張らないよう、そして、「人の命を救いたい」という思いが私の原動力です。

実は、祖父が入院がちで、幼いころから病院を訪れる機会が多かったです。命の現場に立つ医師や看護師の姿に憧れがあり、人命救助の最前線に立

つ救急救命士に。また、その後に授かった第1子は難産でしたが、生まれてきた娘をみて、込み上げてきた「この子を大切にしたい」という思い。命の尊さを改めて感じる瞬間でした。そんな尊い命を守るため、一人でも多くの人に救命の初期対応を身につけてもらうことも私の仕事です。子連れの参加を断っていた救命講習会を、子どもと一緒に受けられるようにと提案し、昨年8月に試行しました。子どもも積極的に受講してくれたのは驚きでした。今後、より充実した講習会となるよう検討を重ねていきます。

私の自慢をひとつ挙げるなら、夫かな。家事や育児を共に担い、仕事ぶりも尊敬できるパートナー。夫や職場の支えのもと、娘たちにとっていい母親であり、職場でも最前線で活躍できる。そんな女性であり続けたいですね。

運命の場所

南三陸町へ行ったのは高校1年生のころ。東日本大震災から、5年ほど経っていました。ボランティアとして漁師の手伝いをしながら地域の皆さんと話をしましたが、まだまだ復興できていない状況を目の当たりに。メディアでは知りえなかった被災地の現状を知って、驚いたものです。以来、将来は地域活性化に貢献したいと思うようになっていきました。大学生のころは、東京の商店街の人たちと一緒にイベントを作り上げてまちを盛り上げたり、長野の竹あかりイベントに参加したりと、さまざまな経験をさせていただきました。ただ楽しむというよりは、「事業者やボランティア、行政など多様な主体がメリットを見出ししていくにはどうすればよいか」など、催しの運営手法や継続方法を学ぶ場としていきました。

卒業後は、コロナ禍で観光関連の就職が難しいこともあって、化粧品メーカーに就職。その間も、「SDGsを地域活性化と結び付けられないか」と考えていた矢先、「竹あかりSDGsプロジェクト」の「地域ビジネスパートナー」募集を知ったんです。もう運命的でしたね。赤目地域の皆さんに温かく受け入れていただき、現在は、竹あかりワークショップなどをお手伝い。今後は、竹を活用した体験型エコツアーの企画・運営、竹の土産物開発など、持続可能なビジネスに結び付けていきたい。いずれは自分の店も構えたいですね。「行動力の伴わない想像力は意味がない」がモットー。目標を持って一緒に取り組んでいける多くのつながりをつくりながら、突き進んでいきます。名張に来ることができて、今すごく幸せです。



地域おこし協力隊
川崎 智哉さん (写真中央)

Profile

横浜出身の24歳。東京の大学で経営学を専攻し、観光やイベントの企画運営を学ぶ。1年半ほど化粧品メーカーに勤務した後、昨年10月に「地域おこし協力隊」として名張へ。「地域ビジネスサポーター」として、赤目地域の「竹あかりSDGsプロジェクト」や赤目四十八滝の「幽玄の竹あかり」に関わりながら、観光振興に取り組んでいく。

写真右は赤目まちづくり委員会会長の藤村純子さん、左は副会長の坂上正佳さん